

# EMERGENCY WATCH!!

## 疾患頻度

- |                    |       |
|--------------------|-------|
| 1. インフルエンザ         | 1593人 |
| (確定：A型571人、B型850人) |       |
| 2. 急性上気道炎・感冒       | 850人  |
| 3. 感染性胃腸炎          | 459人  |
| 4. 咽頭炎・扁桃炎・喉頭炎     | 328人  |
| 5. 気管支炎・肺炎         | 203人  |

No.86  
Feb.2018

## 神戸こども初期急病センター

# 2018年1月受診者数 4155人

寒い日が続いた影響もあり、1月に入り急激にインフルエンザ患者の報告が増え、近年で最も患者が多く、本邦で280万人近くが罹患しているとの報告が出ました。こども急病センターへの受診も、インフルエンザやインフルエンザ疑いの患者さんが急増しました。

今年の流行は湿度が低く寒い日が続くことや、A型とB型が同時に流行していることが理由と考えられます。本邦はインフルエンザ治療薬の使用が世界でも最も高い国の一つとされますが、同時にインフルエンザ検査を受ける患者さんの数も非常に多いと考えられます。中には発熱直後に夜間に救急外来を、インフルエンザ検査の目的で受診され、検査結果が陽性と出ずに、翌日他院の受診を指示される方が散見されます。インフルエンザ検査薬での検査は、鼻の奥の粘膜をこすり診断をしますが、ある程度体内でウイルス抗原が増えないと陽性反応はでませんので、経験上の感想ですが、検査の精度は100%ではなく、家族内や集団生活内での陽性者との濃厚接触がないかぎり、発熱8時間以内で陽性に出ることは少なく、また、発熱のない患者さんでは症状がかなり疑わしくても陽性に出ることは少ないように思います。

インフルエンザが流行する理由はその感染性の高さで、発熱が無い、「隠れた患者」とされる症状の軽いインフルエンザ罹患からの感染にも注意が必要です。発症(38度以上の発熱など)から5日以上経過、かつ、解熱しても、2日経たないと学校などの集団への登校が認められていませんが、大流行を阻止するには、「うつさない」、「うつされない」ためのうがい、マスク、手洗いなどの予防とこの時期の風邪症状が出た方は他人へうつさないためのマナーを守ることが最も大事です。本邦のように人口密度の高い地域では、発症を疑ったら早めに集団からなるべく距離を置き、部屋の湿度を上げ、十分に休養・滋養をとるようにしましょう。インフルエンザ薬はその発熱期間を約半日早く抑える効果はありますが、その服用は、健康上の理由がないかぎり必須ではないとされます。インフルエンザは熱が出ずに集団生活を過ごす患者さんも潜在的に多くいることをよく認識し、大人が感染源にならないよう、慌てずにマナーを守ってこの時期を乗り切りましょう。

